

学校名	秋田県立大曲農業高等学校
-----	--------------

平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

「DAINOプロジェクトによる農業と地域産業の創造－実践的技術・技能・経営力を身に付けた地域創生を担う人材育成プログラムの研究－」

2. 研究の目的

農業の付加価値を生み出すサービスとブランディングを創り出す人材や地域の産業を結び付け6次産業を生み出す人材の育成、また、豊かな農山村資源をグリーンツーリズムなどと結び付け、その活性化のために活躍できる人材の育成に向けて、次の学習プログラムの研究開発を行う。

(1) 【アグリビジネス学習】

「ふるさと秋田」を支える人材の育成に取り組み、地域農業を理解し、地域資源や人的資源を利活用する力を身に付けさせる。

(2) 【イノベーション学習】

地域環境に関するプロジェクト活動、農産物のブランディングや高度な技術実習を通じて、地域環境の保護活動や栽培に関する高度な知識、最先端の技術に触れることにより、「ふるさと秋田」の多様な資源を活用する力を身に付けさせる。

(3) 【高スキルアップ学習】

地域農業に関わる農業者との交流や地域社会の構成者としての自覚を高めさせ、「ふるさと秋田」の地域課題に主体的・協働的に取り組む力を身に付けさせる。

(4) 【組織的マネジメント学習】

農業経営者としての資質を高め、研修を通して農業技術の改良や農業経営上の諸課題についての理解を深め、課題の解決に向けて取り組むことができ、「ふるさと秋田」の農業の発展に貢献できる経営の多角化や高度化の方法を身に付けさせる。

3. 実施期間

契約日から平成31年3月15日まで

4. 当該年度における実施計画

(1) 【アグリビジネス学習】

ア アグリマーケティングハウス活用活動【2・3学年】

平成30年度供用開始予定のアグリマーケティングハウスを活用した活動を展開する。具体的には本校の農産物や加工品の販売はもちろんだが、販売実習を通して望ましい勤労観や職業観を養い、地域住民との交流から大農ブランドを確立する。以下の計画により活動を行う。

(ア) 農産物販売

アグリマーケティングハウスの活用による「大農うめもん市」等の開催。

(イ) 運営について

販売物の端境期への対応として、本校OBによる農産物、加工品の販売及び大仙市農業振興情報センター農業研修生の農産物等の販売。

イ 地域農産物を使った商品開発【全学年】

大仙地域には伝統野菜が数種類、継承されている。例えば、横沢曲がりネギ（太田地区）、石橋ゴボウ（四ッ屋地区）、亀の助ネギ（四ッ屋地区）、強首ハクサイ（強首地区）等があり、これらの栽培を継承するとともに、伝統野菜を使った郷土料理を改めて理解し、素材を活かした商品開発を関係機関と連携し、伝統野菜、県が重要作目としているエダマメ、シイタケ等を含めてブランディングを図る。

ウ 外国人留学生等との交流【2・3学年】

秋田県立大学や秋田大学、国際教養大学の外国人留学生又はALTとの農作業を通して、英語コミュニケーション能力の向上やふるさと秋田の自然景観を見直す機会とする。また、郷土料理や開発した商品の調理・試食を通じて交流の質を高める。大仙地域の特色ある食とそれらを育んできた景観をセットで見てもらい、その効果を利用し、外国人観光客に農村体験をしていただく。

平成29年度に完成したセミナーハウスを活用した体験プログラムとして農業体験、宿泊体験及び調理体験等を実施する。特に調理体験については生徒が指導者を務める。

(ア) 大仙市や大曲商工会議所と連携をして、大曲の花火と就農体験とのコラボレーション。

(イ) 県立大学、秋田大学、国際教養大学（AIU）の留学生との交流。

エ 農業女子講演会

秋田県では女性農業経営者の起業数が全国的トップクラスである。女性ならではの視点やセンスを生かし、独自ブランドや農業戦略を展開している経営者や「土着ベンチャー（県事業）」で起業する女性が多いことから、多様な農業経営者に触れる機会とする。

(2) 【イノベーション学習】

ア 「田沢湖」プロジェクト【全学年】

田沢湖に関する複数のプロジェクト活動、「電気分解による酸性水の中性化」、「電気分解で発生する水素の活用方法」及び「クニマス遺伝子保護」等によって地域資源である田沢湖の環境保全や資源活用について学び、地域の再生と活性化に結び付ける。

- (7) 中性化・水素発電プロジェクト 調査及び研究活動
(立命館大学・信州大学・秋田大学と共同)
- (4) クニマス遺伝子保護プロジェクト クニマスについて情報収集

イ スペース・アグリプロジェクト学習【園芸科学科2年・生物工学科3学年】
宇宙農業開発ISS実験モジュール「きぼう」での作物栽培試験から得られた、宇宙空間での食料生産方法や栄養面からの有望栽培作物等について学び、既存の農業分野に発展的要素を取り入れる。

ウ 高度な技術実習プロジェクト【2・3学年】
ICT活用、ドローンの農業分野への応用や施設栽培における高品質な農産物生産のための環境制御及び圃場管理を行う。また、これらを取り入れた次世代施設園芸及び県内各地の園芸メガ団地での研修や実習をとおして、地域農業の今後の方向性を提案する。

エ 高等教育機関や研究機関等との共同研究プロジェクト【全学年】
秋田県がもつ多様な資源を活かして、産業の振興を図る視点から、「秋田ブランド」の構築に向けた6次産業化の発想や起業家精神を育む取組を各関係機関と連携しながら行い、より高度な知識や最先端の技術を身に付けた人材を育成する。

オ プロフェッショナルによる指導
県内及び県外大学教員等を講師として、それぞれの専門分野に関わる特別講義を実施することで、生徒の知的好奇心を喚起し、学習意欲の高揚を図る。

(3) 【高スキルアップ学習】

ア 大仙市農業研修生等との相互交流
農業後継者を志すフロンティア農業研修生や大仙市農業研修生とともに、農業に関わる講義を受講することにより、農業後継者を目指す生徒の意欲を高める。
また、高校の教員が研修生に対して、各専攻の基礎的な概論の講義を行うことで、教科の深化や横断的な視点を含め、教員自らの資質向上を目指す。

イ 農業・農村に係るファシリテーション研修
卒業後は地域農業及び地域産業の担い手となり、地域社会の構成員となる生徒に対して、秋田県で想定されている少子高齢化、人口減少に対応できる持続可能な地域社会の在り方を考えさせ、生徒一人一人がふるさとを支え、秋田に貢献しようとする意識をもち、地域の課題の解決に向けて、取り組もうとする意欲を高めるための研修を行う。

ウ 「食の6次産業化プロデューサー」(愛称:食P r o.) 研修

国の成長戦略と位置付けられている農業の6次産業化、その実現のためにはいくつかの課題がある。どのように地域資源を活用して付加価値を付け、地域活性化に結び付けていくかという点が大きな課題であり、その推進のためのキーポイントとなるのが人材育成である。6次産業化を進めるためには、一戸の農家で完結することも可能であるが、それが地域農業の活性化につながるとは考えにくい。地域が活性化するためには事業に参加する農家が多い方がよい。そのためには、必然的に多様な分野から様々な人々が関わるのが不可欠となる。6次産業化については平成32年には10兆円を目標としている。その実現のために農産物の高付加価値化する事業に携わり、市場開拓やそれに参画する生産から販売サービスまでの各段階の調整を行うことができる人材育成が必要となる。

そのための初歩的段階として「食P r o.」の育成プログラムであるLEVEL 1 (エントリーレベル) から始め、6次産業化論、食品加工、食品流通を始めとする基礎概論を学び、財務管理、マーケティングなどに範囲が広がるLEVEL 2につなげたい。また、高校生のみならず、大仙市農業者研修生、地域の農業経営者、食品関連事業者などにも「食P r o.」講義の輪を広げ、高校生とともに学び、地域おこしや地域ブランド創出のためのグループワークの場を設定する。

エ 農業経営セミナー (アグリフューチャージャパン)

秋田県では人口減少が急速に進行する全国有数の高齢県であり、後継者不足に伴う農業の担い手育成は喫緊の課題である。また、地域農業の将来のために、農産物のマーケティングや商品開発、事業開発を手がける人材の確保も重要な課題である。農業経営者としての資質を備えるためにアグリフューチャージャパンに講師を依頼し、革新的なビジネスモデルを構築し、地域をリードする人材を育成する。

オ 教員研修

教員は自らが不断の研究と修養に努めなければならない。生徒の人間としての望ましい成長・発達を促すことを担う教員として、資質の向上に努め、その力量の一層の向上と意識変革を目的として研修を行う。

(4) 【組織的マネジメント学習】

ア 長期インターンシップ

これからの農業教育は単なる農業後継者を育成するだけでなく、農業経営者の育成にも取り組まなければならない。組織的マネジメント学習を充実させるため、平成20年から22年に行われた「地域産業の担い手育成プロジェクト」(文部科学省・農林水産省共同事業)で培われた人的ネットワークを活用し、先進農家、農業法人及び研究機関、加えて農業に参入している企業等で長期インターンシップを実施し、農業経営者としての資質を育成する。

(7) 先進農家での体験実習 先進農家、農業法人、園芸メガ団地

(イ) 研究機関での体験実習 農業試験場、果樹試験場、畜産試験場
林業研究研修センター、JA全農(単位JA)
総合食品研究センター、就農者研修センター

(ウ) 学科関連施設での体験実習 食品製造メーカー、食品加工グループ
介護施設、保育施設

イ 学校設定科目「農と食」の開発と実践【農業科学科2・3学年】

秋田県農業や地域農業の自然・農村生活について、探究的な学習活動を通して、地域や農山村の特色や文化等を理解させ、地域の動向に興味と関心をもたせるとともに、地域資源の保全と活用について考えさせ、地域の振興に寄与できる能力と態度を育成する。

ウ 農業経営塾高校生版

農業・農村を取り巻く環境が大きく変化している今日、農業経営体が生き抜くための最重要事項の一つとされているのが「農業経営者の育成」である。近年では、都道府県自治体のみならず、大学や金融機関等が実施主体となり、農業経営者育成プログラムへの取組が行われてきている。そこで、農業経営者育成のための基本プログラムを実践することで、次代を担う農業経営者を育成する。

エ 農業科学館ナビゲーター

秋田県立農業科学館との連携を図り、資格試験である「農業科学館ナビゲーター」の取得を啓発し、セカンドスクールとしても利用されている農業科学館でのナビゲーターとして、その活動に参画する。

【スケジュール】

活動時期	活 動 の 内 容	
	委員会・研究開発	学習プログラムの実施計画
4月	○第1回研究推進委員会	イノベーション学習→ 「田沢湖」プロジェクト スペース・アグリプロジェクト学習 高スキルアップ学習→ 「食Pro.」認証申請 組織的マネジメント学習→ 学校設定科目「農と食」の開発と実践 農業科学館ナビゲーター
5月	○第2回研究推進委員会 ◆第1回運営指導委員会	アグリビジネス学習→ アグリマーケティングハウスの活用活動 イノベーション学習→ 「田沢湖」プロジェクト スペース・アグリプロジェクト学習 プロフェッショナルによる指導 組織的マネジメント学習→ 学校設定科目「農と食」の開発と実践
6月	○第3回研究推進委員会	アグリビジネス学習→ 地域農産物を使った商品開発 イノベーション学習→ 「田沢湖」プロジェクト スペース・アグリプロジェクト学習 プロフェッショナルによる指導 高スキルアップ学習→ 農業・農村に係る ファシリテーション研修（1回目） 農業研修生等との相互交流（1回目） 組織的マネジメント学習→ 長期インターンシップ

		学校設定科目「農と食」の開発と実践
7月	○第4回研究推進委員会	アグリビジネス学習→ アグリマーケティングハウスの活用活動 農業女子講演会 イノベーション学習 「田沢湖」プロジェクト スペース・アグリプロジェクト学習 プロフェッショナルによる指導 高スキルアップ学習→ 農業・農村に係る ファシリテーション研修（2回目） 農業経営セミナー 教員研修 組織的マネジメント学習→ 長期インターンシップ 学校設定科目「農と食」の開発と実践 農業科学館ナビゲーター
8月	○第5回研究推進委員会	アグリビジネス学習→ 外国人留学生等との交流 アグリマーケティングハウスの活用活動 イノベーション学習→ 「田沢湖」プロジェクト スペース・アグリプロジェクト学習 高スキルアップ学習→ 教員研修 組織的マネジメント学習→ 長期インターンシップ 農業科学館ナビゲーター
9月	○第6回研究推進委員会	アグリビジネス学習→ アグリマーケティングハウスの活用活動 外国人留学生等との交流 イノベーション学習→ 「田沢湖」プロジェクト スペース・アグリプロジェクト学習 プロフェッショナルによる指導 高スキルアップ学習→ 農業研修生等との相互交流（2回目） 組織的マネジメント学習→ 学校設定科目「農と食」の開発と実践
10月	○第7回研究推進委員会	アグリビジネス学習→ アグリマーケティングハウスの活用活動 地域農産物を使った商品開発 イノベーション学習→ 「田沢湖」プロジェクト スペース・アグリプロジェクト学習 プロフェッショナルによる指導 高スキルアップ学習→ 農業経営セミナー 組織的マネジメント学習→

		学校設定科目「農と食」の開発と実践 第28回全国産業教育フェア山口大会 SPH事業成果発表会
11月	○第8回研究推進委員会	アグリビジネス学習→ 農業女子講演会 外国人留学生等との交流 イノベーション学習→ 「田沢湖」プロジェクト スペース・アグリプロジェクト学習 高スキルアップ学習→ 農業研修生等との相互交流（3回目） 組織的マネジメント学習→ 長期インターンシップ 学校設定科目「農と食」の開発と実践 農業科学館ナビゲーター
12月	○第9回研究推進委員会 ◆第2回運営指導委員会 ◎公開成果発表会	イノベーション学習→ 「田沢湖」プロジェクト スペース・アグリプロジェクト学習 高スキルアップ学習→ 教員研修 組織的マネジメント学習→ 学校設定科目「農と食」の開発と実践 農業科学館ナビゲーター
1月	○第10回研究推進委員会 ◎研究成果報告書（2年次）の作成	イノベーション学習→ 「田沢湖」プロジェクト スペース・アグリプロジェクト学習 高スキルアップ学習→ 「食Pro.」レベル1 個別申請 教員研修 組織的マネジメント学習→ 学校設定科目「農と食」の開発と実践 農業科学館ナビゲーター
2月	○第11回研究推進委員会	イノベーション学習→ 「田沢湖」プロジェクト スペース・アグリプロジェクト学習 組織的マネジメント学習→ 学校設定科目「農と食」の開発と実践 SPH研究成果発表会（文部科学省）
3月	○第12回研究推進委員会 ◎文部科学省へ事業完了報告書等を提出	イノベーション学習→ 「田沢湖」プロジェクト スペース・アグリプロジェクト学習 組織的マネジメント学習→ 学校設定科目「農と食」の開発と実践

※実施時期は、事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。

5. 実施体制

【主体的・協働的な学習としてプロジェクト学習法を取り入れ、生徒の意欲を高める体制】

本校では生徒に主体的・協働的な学習を通して、農業に関する知識・技術の定着を

図りながら、地域との関わりの中から課題を発見し、その課題解決に向けて取り組むことができる人材育成を目指している。

農業科学科・食品科学科・園芸科学科・生活科学科の1年次は科目「農業と環境」、農業科学科・生物工学科は2・3年次に科目「課題研究」、生活科学科は3年次に科目「課題研究」でプロジェクト発表会を実施している。2・3年生の発表会に下級生も参加することで、プレゼンテーション能力の向上を図っている。また、参加する者は生徒のみとする従来の発表会のスタイルから地域住民や保護者を招いての発表会のスタイルとし、農業高校のプロジェクト活動をより地域に発信する機会とする。

さらにこれを充実させるため、連携先である大仙市農業研修生との相互交流により、本校生徒、教員及び研修生の識見を深めたり、共同研究を行うための機会とする。

(1) 研究担当者

氏名	職名	役割分担・担当教科
佐々木孝之	教諭	◎研究開発主任（事業統括）・教科「農業」（果樹）
佐々木惇	教諭	○研究開発副主任・組織的マネジメント担当 教科「農業」（畜産）
高階市太郎	教諭	○アグリビジネス担当・教科「農業」
大沼克彦	教諭	○イノベーション担当・教科「農業」
照井豊和	教諭	○高スキルアップ担当・教科「農業」
伊藤寿人	教諭	○アグリビジネス副担当・教科「農業」
大坂淳	教諭	○イノベーション副担当・教科「農業」
石垣ルリ子	教諭	○スキルアップ副担当・教科「外国語」（英語）
小松国子	教諭	○組織的マネジメント副担当・教科「家庭」
相馬等	事務長	事業推進・事務
佐々木敬隆	主査	事業推進・事務
渡邊歩	主任	事業推進・事務
加藤千乃	主事	事業推進・事務
土屋深緒	教諭	高スキルアップ担当・教科「国語」
千葉裕子	教諭	高スキルアップ担当・教科「地理歴史・公民」
加納綾子	教諭	高スキルアップ担当・教科「理科」（生物）
菅原久美子	教諭	高スキルアップ担当・教科「数学」
山本力	教諭	高スキルアップ担当・教科「保健体育」
入江香織	教諭	高スキルアップ担当・教科「農業」（野菜）
三浦薫	教諭	高スキルアップ担当・教科「農業」（作物）
高橋菜津美	臨時講師	高スキルアップ担当・教科「保健体育」
高川健悟	教諭	イノベーション担当・教科「農業」（森林科学）
古瀬利彦	教諭	イノベーション担当・教科「外国語」（英語）
平塚祥広	教諭	イノベーション担当・教科「農業」（草花）
長浜広大	教諭	イノベーション担当・教科「数学」
佐藤香	教諭	イノベーション担当・教科「国語」
石戸将太	教諭	イノベーション担当・教科「保健体育」
小松清高	臨時講師	イノベーション担当・教科「農業」（野菜）
佐々木美穂	臨時講師	イノベーション担当・教科「理科」（生物）
高橋寿徳	教諭	アグリビジネス担当・教科「農業」
高橋寿宏	教諭	アグリビジネス担当・教科「数学」
鎌田暢子	教諭	アグリビジネス担当・教科「芸術」（音楽）
佐々木由貴子	教諭	アグリビジネス担当・教科「家庭」
京極ゆう子	教諭	アグリビジネス担当・教科「家庭」
佐々木梢	教諭	アグリビジネス担当・教科「地理歴史・公民」

加藤美紀	教諭	アグリビジネス担当・教科「外国語」(英語)
マシュー・トロイツ	A L T	アグリビジネス担当・教科「外国語」
森合慎一郎	臨時講師	アグリビジネス担当・教科「農業」
青木潤	教諭	組織的マネジメント担当・教科「保健体育」
田口健一	教諭	組織的マネジメント担当・教科「農業」(畜産)
小松田菜摘	臨時講師	組織的マネジメント担当・教科「家庭」
斎藤卓哉	臨時講師	組織的マネジメント担当・教科「国語」
佐藤晴輝	実習助手	組織的マネジメント担当・教科「農業」(畜産)
三嶋登忍	実習助手	組織的マネジメント担当・教科「農業」(食品加工)
山代和也	実習助手	組織的マネジメント担当・教科「農業」(作物)
佐々木尚人	実習助手	組織的マネジメント担当・教科「農業」(作物)
黒田一久	実習助手	組織的マネジメント担当・教科「農業」(生物工学)
小林和成	実習助手	組織的マネジメント担当・教科「農業」(果樹)
佐藤農	実習助手	組織的マネジメント担当・教科「農業」(野菜)
佐藤潤之介	実習助手	組織的マネジメント担当・教科「農業」(草花)
進藤純雄	臨時実習助手	組織的マネジメント担当・教科「農業」(畜産)

(2) 実行委員会

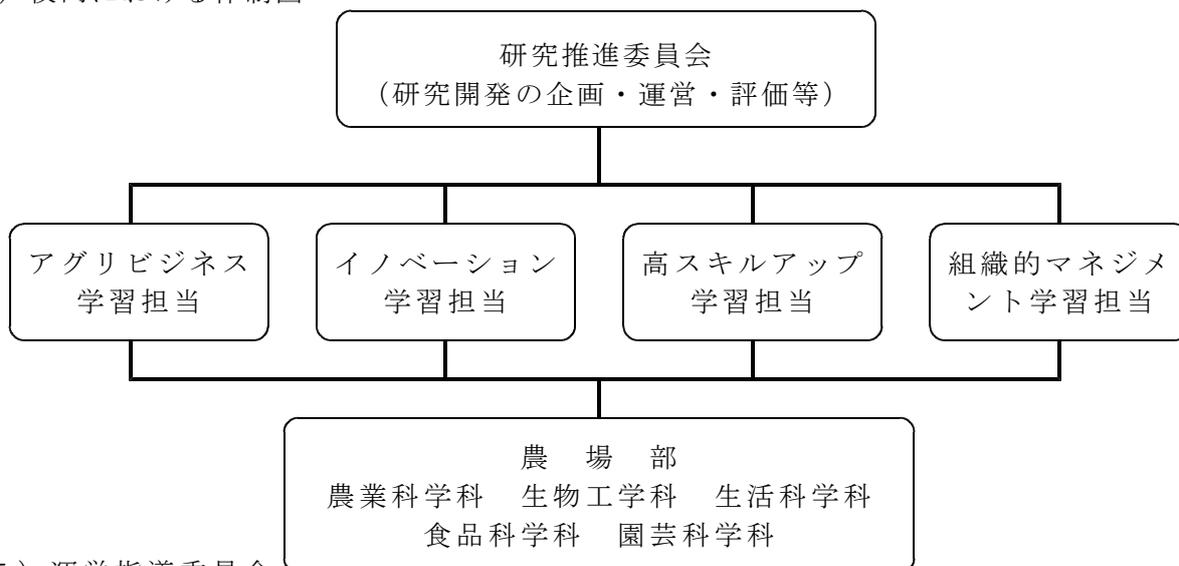
氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
藤原淳	秋田県立大曲農業高等学校・教頭	相談役 ・教科「理科・農業」
佐々木孝之	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	◎研究開発主任(事業統括) ・教科「農業」(果樹)
佐々木惇	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○研究開発副主任 組織的マネジメント担当 ・教科「農業」(畜産)
高階市太郎	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○アグリビジネス担当 ・教科「農業」(農業経営)
大沼克彦	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○イノベーション担当 ・教科「農業」(生物工学)
照井豊和	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○高スキルアップ担当 ・教科「農業」(生物工学)
平塚祥広	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○イノベーション副担当 ・教科「農業」(草花)
高川健悟	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○高スキルアップ副担当 ・教科「農業」(森林科学)
小松国子	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○組織的マネジメント副担当 ・教科「家庭」

(3) 研究推進委員会

氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
岸弘昭	秋田県教育委員会 高校教育課指導班・指導主事	指導助言・教科「農業」
小林吉則	秋田県立大曲農業高等学校・校長	相談役 ・教科「理科」
遠藤聡	秋田県立大曲農業高等学校・教頭	相談役 ・教科「英語」
藤原淳	秋田県立大曲農業高等学校・教頭	相談役 ・教科「理科・農業」

佐々木孝之	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	◎研究開発主任（事業統括） ・教科「農業」（果樹）
佐々木惇	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○研究開発副主任 ○組織的マネジメント担当 ・教科「農業」（畜産）
高階市太郎	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○アグリビジネス担当 ・教科「農業」（農業経営）
大沼克彦	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○イノベーション担当 ・教科「農業」（生物工学）
照井豊和	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○高スキルアップ担当 ・教科「農業」（生物工学）
伊藤寿人	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○アグリビジネス副担当 ・教科「農業」（食品加工）
大坂淳	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○イノベーション副担当 ・教科「農業」（生物工学）
石垣ルリ子	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○高スキルアップ副担当 ・教科「外国語」（英語）
小松国子	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○組織的マネジメント副担当 ・教科「家庭」
佐々木敬隆	秋田県立大曲農業高等学校・主査	○事業推進・事務

(4) 校内における体制図



(5) 運営指導委員会

氏名	職名	役割分担・専門分野等
長濱健一郎	生物環境学科教授（秋田県立大学）	委員長（座長） ・指導助言
渡部克宏	高校教育課長（秋田県教育庁）	指導助言 ・教育行政
濱田 陽	秋田大学教育推進総合センター 准教授	指導助言 ・教育
草薨郁雄	事務局長兼農業振興部長 （（社）秋田県農業公社）	指導助言 ・農業担い手育成
藤井光悦	参事兼営農経済部部長（JA秋田おばこ）	指導助言

		・農業の振興
渡辺重美	農林部農林振興課長（大仙市）	指導助言 ・農業や産業の振興
柴田雄喜	農林部農林振興普及課長 （秋田県仙北地域振興局）	指導助言 ・農業政策
沓澤金哉	館長（秋田県立農業科学館）	指導助言 ・生涯教育
門脇富士美	農家民宿「星雪館」代表	指導助言 ・起業、海外交流
大和田しづえ	合資会社「エコニコ農園」	指導助言 ・農業

(6) 定性目標・定量目標と効果測定

実施項目	定性目標 (評価方法)	定量目標
● アグリビジネス学習プログラムの開発と実践		
ア アグリマーケティングハウスの活用活動	<input type="checkbox"/> 販売実習を通して、コミュニケーション能力向上が図れたか。 <input type="checkbox"/> 観察法（行動、発言、発表） <input type="checkbox"/> 作品法（ノート、プリント） <input type="checkbox"/> アンケート調査 <input type="checkbox"/> 面接法	<input type="checkbox"/> 稼働日数14日 <input type="checkbox"/> 商品開発 5件 <input type="checkbox"/> 販売以外の活用（市民ホールとして）
イ 地域農産物を使った商品開発	<input type="checkbox"/> 伝統野菜の栽培方法を理解し、それを使用した商品開発を手掛けることができたか。 <input type="checkbox"/> 観察法（行動、発言、発表） <input type="checkbox"/> 作品法（ノート、プリント） <input type="checkbox"/> アンケート調査	<input type="checkbox"/> 年2回実施 <input type="checkbox"/> 商品開発件数6件
ウ 外国人留学生等との交流	<input type="checkbox"/> 地域の伝統文化をわかりやすく紹介することができたか。 <input type="checkbox"/> 外国人と意欲的に交流することができたか。 <input type="checkbox"/> 観察法（行動、発言、発表） <input type="checkbox"/> 作品法（ノート、プリント） <input type="checkbox"/> アンケート調査	<input type="checkbox"/> 年1回実施 <input type="checkbox"/> 「大曲の花火」との連携
エ 農業女子講演会	<input type="checkbox"/> 農業の各分野の課題解決に取り組むことができたか。 <input type="checkbox"/> 農業経営の諸課題について理解し、課題解決に取り組むことができたか。 <input type="checkbox"/> 観察法（行動、発言、発表） <input type="checkbox"/> 作品法（ノート、プリント） <input type="checkbox"/> アンケート調査	<input type="checkbox"/> 年2回実施
● イノベーション学習プログラムの開発と実践		
ア 「田沢湖」プロジェクト	<input type="checkbox"/> プロジェクト学習に対	<input type="checkbox"/> 第17回世界湖沼

	<p>する意欲向上や課題解決に、主体的・協働的に取り組むことができたか。</p> <p><input type="checkbox"/> 観察法（行動、発言、発表）</p> <p><input type="checkbox"/> 作品法（ノート、プリント）</p> <p><input type="checkbox"/> アンケート調査</p> <p><input type="checkbox"/> 面接法</p>	<p>会議 学生会議での発表</p>
イ スペース・アグリプロジェクト	<p>○宇宙空間での食料生産や食用に結びつく生物について、理解し将来的な宇宙農業に結びつけることができたか。</p> <p><input type="checkbox"/> 観察法（行動、発言、発表）</p> <p><input type="checkbox"/> 作品法（ノート、プリント）</p> <p><input type="checkbox"/> アンケート調査</p>	<p><input type="checkbox"/> 富士通Akisai工場（会津若松市）訪問</p>
ウ 高度な技術実習プロジェクト	<p>○次世代施設園芸施設や園芸メガ団地での研修や実習を通してこれからの農業経営者としての資質を向上させるため、意欲的に参加できたか。</p> <p>○高校生の立場から将来的な秋田県農業の姿を提言できたか。</p> <p><input type="checkbox"/> 観察法（行動、発言、発表）</p> <p><input type="checkbox"/> 作品法（ノート、プリント）</p> <p><input type="checkbox"/> アンケート調査</p>	
エ 高等教育機関や研究機関等との共同研究プロジェクト	<p>○6次産業化を意識し、地域の農産物に付加価値をつけ「秋田ブランド」構築のため、意欲的に取り組んだか。</p> <p><input type="checkbox"/> 観察法（行動、発言、発表）</p> <p><input type="checkbox"/> 作品法（ノート、プリント）</p> <p><input type="checkbox"/> アンケート調査</p>	<p><input type="checkbox"/> 2件実施</p>
オ プロフェッショナルによる指導	<p>○次世代施設園芸施設についての知識と技術へ</p>	<p><input type="checkbox"/> 5回実施</p> <p><input type="checkbox"/> 日本農業技術検定</p>

	<p>の興味・関心が高まったか。</p> <p><input type="checkbox"/> 観察法（行動、発言、発表）</p> <p><input type="checkbox"/> 作品法（ノート、プリント）</p> <p><input type="checkbox"/> アンケート調査</p>	3級合格率80%
●高スキルアップ学習プログラムの開発と実践		
ア 大仙市農業研修生等との相互交流	<p>○地域農業の相互の課題を共有し、有利性を理解することができたか。</p> <p>○大仙市市議との懇談を通して地域農業の現状を理解し、これからの農業のあり方について認識を深めたか。</p> <p><input type="checkbox"/> 観察法（行動、発言、発表）</p> <p><input type="checkbox"/> アンケート調査</p>	<p><input type="checkbox"/> 年3回実施</p> <p><input type="checkbox"/> 教員による講義の実施</p>
イ 農業・農村に係るファシリテーション研修	<p>○コミュニケーションスキルを高めることができたか。</p> <p><input type="checkbox"/> 観察法（行動、発言、発表）</p> <p><input type="checkbox"/> 作品法（ノート、プリント）</p> <p><input type="checkbox"/> アンケート調査</p>	<input type="checkbox"/> 年1回
ウ 「食の6次産業化プロデューサー」（食Pro.）研修		<p><input type="checkbox"/> 食品科学科2年35名</p> <p>4月認証申請</p> <p>1月個別申請</p>
エ 農業経営セミナー	<p>○意欲的に講義に参加し、農業経営者としての資質を向上させることができたか。</p> <p><input type="checkbox"/> 観察法（行動、発言、発表）</p> <p><input type="checkbox"/> 作品法（ノート、プリント）</p> <p><input type="checkbox"/> アンケート調査</p>	<p><input type="checkbox"/> 就農啓発セミナー</p> <p><input type="checkbox"/> 2年各クラス1回</p>
オ 教員研修	<p>○専門分野の知見を深め、授業に反映させることができたか。</p> <p><input type="checkbox"/> 報告書</p> <p><input type="checkbox"/> アンケート調査</p>	

● 組織的マネジメント学習プログラム の開発と実践		
ア 長期インターンシップ	<input type="radio"/> 産業現場や継続教育機関等に対する興味・関心が専門的な知識と技術の習得に意欲的になったか。 <input type="checkbox"/> 観察法（行動、発言、発表） <input type="checkbox"/> 作品法（ノート、プリント） <input type="checkbox"/> アンケート調査 <input type="checkbox"/> 面接法	<input type="checkbox"/> 県内実施 5 名 <input type="checkbox"/> 県外実施 5 名 （長期インターンシップ）
イ 学校設定科目「農と食」の開発と実践	<input type="radio"/> 地域農業に対する意欲が高まり、主体的・協働的に調査・研究に取り組むことができたか。 <input type="checkbox"/> 観察法（行動、発言、発表） <input type="checkbox"/> 作品法（ノート、プリント） <input type="checkbox"/> アンケート調査 <input type="checkbox"/> 考査	<input type="checkbox"/> 外部講師の活用 2 回
ウ 農業経営塾高校生版	<input type="radio"/> 農業経営に関わる基本プログラムを理解し、主体的に農業経営に携わっていく意欲を高めることができたか。 <input type="checkbox"/> 観察法（行動、発言、発表） <input type="checkbox"/> アンケート調査 <input type="checkbox"/> 面接法	<input type="checkbox"/> 年 3 回以上実施
エ 農業科学館ナビゲーター	<input type="radio"/> ナビゲーターとして、主体的に活動することができたか。 <input type="checkbox"/> 観察法（行動、発言、発表） <input type="checkbox"/> アンケート調査	<input type="checkbox"/> 農業科学館ナビゲーター検定 合格率 95% <input type="checkbox"/> 農業科学館ナビゲーター活動 5 名

評価規準

【アグリビジネス学習】

到達目標：地域農業を理解し、地域資源や人的資源を利活用する力を身に付ける。

○アグリマーケティングハウス活用活動

レベル	評価規準	評価尺度
1	本校で販売する農産物や加工品を理解できる。	100%できた 70%できた 50%できた 30%できた
2	アグリマーケティングハウスでの販売活動により、地域住民と交流することができる。	100%できた 70%できた 50%できた 30%できた
3	アグリマーケティングハウスの販売活動以外の利用方法を考えることができる。	100%できた 70%できた 50%できた 30%できた
4	アグリマーケティングハウスを地域のコミュニティとなるような活動内容を提案し、計画に基づき実行することができる。	100%できた 70%できた 50%できた 30%できた

○地域農産物を使った商品開発

レベル	評価規準	評価尺度
1	農業が生活や環境に関連していることを理解できる。	100%できた 70%できた 50%できた 30%できた
2	地域農業や地域の伝統野菜、栽培方法を理解できる。	100%できた 70%できた 50%できた 30%できた
3	伝統野菜を栽培、種子の保存ができる。	100%できた 70%できた 50%できた 30%できた
4	伝統野菜を保護する活動や商品開発などに着手することができる。	100%できた 70%できた 50%できた 30%できた

○外国人留学生等との交流

レベル	評価規準	評価尺度
1	外国人と野菜栽培等で交流することに興味・関心がある。	100%ある 70%ある 50%ある 30%ある
2	積極的に外国人と交流した。	100%できた 70%できた 50%できた 30%できた

3	英語を使って積極的に外国人と交流した。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
4	農業に関わる用語を英語で表現することができた。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた

○農業女子講演会

レベル	評価規準	評価尺度	
1	真摯な姿勢で講演を聴くことができる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
2	講演後、農業学習に対する意欲が向上している。	100%向上した 50%向上した	70%向上した 30%向上した
3	農業経営に占める女性従事者の割合は高く、重要な位置づけであることが理解できる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
4	講演から、将来の具体的な農業経営やビジネスモデルを計画することができる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた

○外国人留学生等との交流

レベル	評価規準	評価尺度	
1	外国人と野菜栽培等で交流することに興味・関心がある。	100%ある 50%ある	70%ある 30%ある
2	積極的に外国人と交流した。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
3	英語を使って積極的に外国人と交流した。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
4	農業に関わる用語を英語で表現することができた。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた

【イノベーション学習】

到達目標：地域課題のプロジェクト活動や地域の農産物を活用したブランディング、高度な技術実習を通じて課題解決のための方法や栽培に関する高度な知識、技術に触れることにより、多様な資源を活用、新しい価値を提案する力を身に付けている。

○「田沢湖」プロジェクト、スペースアグリプロジェクト、共同研究プロジェクト

レベル	評価規準	評価尺度	
1	この学習に参加することにより、農業学習に対する意欲が向上している。	100%向上した 50%向上した	70%向上した 30%向上した
2	課題解決のための方法やその取り組みに協働的に取り組むことができる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
3	プロジェクト学習の課題設定について、地域が抱える課題に積極的に取り組んでいる。	100%取り組んだ 50%取り組んだ	70%取り組んだ 30%取り組んだ
4	課題解決の方法を地域に発信し、その普及に努めることができる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた

○高度な技術実習

レベル	評価規準	評価尺度	
1	農業生産に関わる新たな技術や施設に興味・関心をもつことができる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
2	農業とICT（情報通信技術）について、興味・関心をもつことができる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
3	農業分野へのICTの関わりがより増してきたことを理解している。	100%理解した 50%理解した	70%理解した 30%理解した
4	農業とICTの関わりについて、より学びたいという姿勢がでてきた。	100%でてきた 50%でてきた	70%でてきた 30%でてきた

○プロフェッショナルによる指導

レベル	評価規準	評価尺度	
1	農業分野に関わる技術や施設に興味・関心をもつことができた。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
2	農業分野に関わる技術や施設に関心をもち、理解することができた。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた

3	農業分野に関わる技術や施設に関心をもち、理解を深め、主体的に取り組むことができた。	100%取り組んだ 50%取り組んだ	70%取り組んだ 30%取り組んだ
4	農業分野に関わる技術や施設に関心をもち、理解を深め、主体的に取り組む、進路活動に生かすことができた。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた

【高スキルアップ学習】

到達目標：地域農業に関わる農業者との交流や地域社会の構成者としての自覚を高めさせ、地域課題に主体的・協働的に取り組むことができる力を身に付けている。

○大仙市農業研修生等との相互交流

レベル	評価規準	評価尺度	
1	この学習に参加することにより、農業学習に対する意欲が向上している。	100%向上した 50%向上した	70%向上した 30%向上した
2	農業者との交流学习により地域社会が抱える課題について理解できる。	100%理解した 50%理解した	70%理解した 30%理解した
3	地域の農業者との交流に関わり、農業者との意見交換などができ、自らの考えを発表することができる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
4	農業者との交流により、地域社会の構成者としての自覚が高まり、地域農業の課題や有利性を理解できる。	100%理解した 50%理解した	70%理解した 30%理解した

○農業・農村に係るファシリテーション研修

レベル	評価規準	評価尺度	
1	研修に積極的に参加できる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
2	研修において、参加した人と様々な方法で交流することができる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
3	打ち解けるための方法を身に付けることができる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
4	この研修を普段の学習や特別活動に活かすことができる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた

○農業経営セミナー

レベル	評価規準	評価尺度	
1	真摯な姿勢で講演を聴くことができる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
2	講演後、農業学習に対する意欲が向上している。	100%向上した 50%向上した	70%向上した 30%向上した
3	農業経営に占める女性従事者の割合は高く、重要な位置づけであることが理解できる。	100%理解できた 50%理解できた	70%理解できた 30%理解できた
4	講演から、将来の具体的な農業経営やビジネスモデルを計画することができる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた

○食の6次産業化プロデューサー

レベル	評価規準	評価尺度	
1	この学習に参加することにより、農業学習に対する意欲が向上している。	100%向上した 50%向上した	70%向上した 30%向上した
2	農産物の付加価値の付け方、加工品について理解できる。	100%理解できた 50%理解できた	70%理解できた 30%理解できた
3	「食P r o .」の資格をどのように活かしていくか、具体的な方策を提案できる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
4	「食P r o .」の資格を活かすための農業経営スタイルを提案できる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた

○教員研修

レベル	評価規準	評価尺度	
1	研修に参加することで自身の専門分野を深めようとする意欲がある。	100%意欲がある 50%意欲がある	70%意欲がある 30%意欲がある
2	生徒のために先端技術や先進地の取組に関心があり、資料収集している。	100%収集した 50%収集した	70%収集した 30%収集した
3	研修成果を授業を通じて、還元し、生徒も一層の理解を深めている。	100%深めた 50%深めた	70%深めた 30%深めた
	研修成果をプロジェクト学習に活か		

4	し、農業クラブ活動で、生徒が優秀な成績を修める等、結果を残している。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
---	------------------------------------	-------------------	------------------

【組織的マネジメント学習】

到達目標：農業経営者としての資質を高め、研修を通して農業技術の改良や農業経営上の諸課題について理解を深め、課題解決のために取り組み、農業の発展に貢献できる経営の多角化や高度化の方法を身に付けている。

○長期インターンシップ

レベル	評価規準	評価尺度	
1	地域農業に対する興味・関心を高め、農業学習に対する意欲が向上している。	100%向上した 50%向上した	70%向上した 30%向上した
2	地域農業を理解し、農業学習に対して、主体的・協働的に調査・研究に取り組むことができる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
3	農業に関する高度な知識・技術に対して興味・関心もち、産業現場や高等教育機関等での農業学習（研修）に対して意欲的に取り組むことができる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
4	地域農業の課題意識、貢献意識が向上し、習得した専門的知識・技術をより深化・総合化させることができた。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた

○学校設定科目「農と食」の開発と実践

レベル	評価規準	評価尺度	
1	授業に意欲的に参加できる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
2	地域農業や伝統野菜について理解できる。	100%理解できた 50%理解できた	70%理解できた 30%理解できた
3	伝統野菜の活用の仕方を提案することができる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた
4	地域農産物の活用方法を提案することができる。	100%できた 50%できた	70%できた 30%できた

○農業経営塾高校生版

--	--	--	--

レベル	評価規準	評価尺度
1	授業に意欲的に参加できる。	100%できた 70%できた 50%できた 30%できた
2	地域農業や経営のための要素について理解できる。	100%理解できた 70%理解できた 50%理解できた 30%理解できた
3	農業経営スタイルを発表し、他者と意見交換できる。	100%できた 70%できた 50%できた 30%できた
4	農業経営の要素を理解し、自らのビジョンを構築できる。	100%できた 70%できた 50%できた 30%できた

○農業科学館ナビゲーター研修

レベル	評価規準	評価尺度
1	研修に意欲的に参加できる。	100%できた 70%できた 50%できた 30%できた
2	農業科学館について理解できる。	100%理解できた 70%理解できた 50%理解できた 30%理解できた
3	農業科学館について、施設や展示内容を説明できる。	100%できた 70%できた 50%できた 30%できた
4	ナビゲーターとして活動し、異世代交流ができる。	100%できた 70%できた 50%できた 30%できた

「SPH3年間の学びを農業学習の学び」につなげるために、「ポートフォリオ」を導入する。SPHに関わる活動に参加した際、事業の目標や記録、学習プリント、自己評価用紙、相互評価用紙、教職員からのアドバイス、生徒自身が収集した資料等を時系列にファイリングし、活用する。自己評価をする際には生徒自身に評価項目を設定させ、生徒の参加意識を高める。また、情報収集や資料作成のためにパソコンを使用するので、電子ポートフォリオを活用する。活用方法としては、事業に参加した成果をまとめる時に利用するプレゼンテーションは制作途中のファイルに上書きせず、時系列で保存する。また、それぞれの評価（自己、相互、教職員）に活用したり、農業研修生との相互交流学習ではビデオを活用し、発表態度の変容などの参考にしたり、付箋や電子黒板を利用した記録の残し方にも工夫を重ねる。

6. 研究内容実施時期

研究内容												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
アグリビジネス学習 アグリマーケティング グハウス活用活動	運営方針	広報活動	販売	販売	販売	販売	販売 広報活動		評価 課題		運営方針	
アグリビジネス学習 「伝統野菜」講演会	講師 交渉		講演 調査	評価 課題			講演 調査	評価 課題				
アグリビジネス学習 農業女子講演会		講師 交渉		講演 調査	評価 課題	講師 交渉		講演 調査	評価 課題			
アグリビジネス学習 外国人留学生等との 交流		事業 計画			交流 活動 調査	交流 活動 調査		交流 活動 調査	評価 課題			
アグリビジネス学習 地域農産物を使った 商品開発	事業 計画	栽培 準備	栽培	栽培	栽培 調査	栽培 調査	栽培 調査	評価				
イノベーション学習 田沢湖プロジェクト	研究 活動	研究 活動	研究 活動	大学 訪問 調査 評価	大学 訪問 研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動
イノベーション学習 スペース・アグリ プロジェクト学習	研究 活動	研究 活動	研究 活動	視察 評価	評価 課題	研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動
イノベーション学習 プロフェッショナル による指導	講師 選定	ドロー ン 調査 評価	食品 製造 調査 評価	6次 産業 調査 評価		機能 野菜 伝統 野菜 調査 評価	草花 調査 評価					
イノベーション学習 高等教育機関等との 共同開発プロジェクト	研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動	評価 課題	研究 活動	研究 活動	研究 活動
高スキルアップ学習 教員研修	研修 先 選定			研修 評価 課題	研修 評価 課題				研修 評価 課題	研修 評価 課題		
高スキルアップ学習 大仙市農業研修生等 との相互交流	計画 立案		第1 回交 流学 習 調査 評価		計画 立案	第2 回交 流学 習 調査 評価	計画 立案	第3 回交 流学 習 調査 評価	次年度 への課 題			
高スキルアップ学習 農業経営セミナー		講師 選定		講演 評価 課題	講師 選定		講演 評価 課題					
高スキルアップ学習 「食Pro」認証プログラム	認証 申請	→	→	→	→	→	→	→	→	個別 申請	→	→

高スキルアップ学習 農業・農村に係るファシリテーション研修	講師 選定		研修 1回目	研修 2回目								
組織的マネジメント 学習 長期インターンシップ	研修 生募 集	研修 内容 検討	研修 調査 評価 課題									
組織的マネジメント 学習 学校設定科目「農と食」プログラム実践	ガイ ダンス	実践 講師 選定	実践	実践 講演 調査	実践	実践 講演 調査	実践	実践 講演 調査	実践	実践	実践	実践 調査 評価 課題
組織的マネジメント 学習 農業経営塾高校生版	講師 選定	ガイ ダンス		講義		講義		講義				
組織的マネジメント 学習 農業科学館ナビゲーター研修	養成 研修 2年			ナビ 活動	ナビ 活動			養成 研修 1年	ナビ 活動	ナビ 活動		

※実施時期は、事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目
なし				

8. 知的財産権の帰属

- (○) 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。
 () 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有・無

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

別紙2に記載